

北九州市上下水道事業中期経営計画2030（素案）に対する
市民意見の募集結果等について

1 市民意見概要

(1) 意見募集期間

令和8年1月16日（金）～令和8年2月16日（月）

(2) 意見提出状況

- ①提出者数 3人
- ②提出意見数 18件
- ③提出方法 持参：1人、電子メール：1人、
電子申請（オンライン）：1人

④提出された意見の内訳

項 目	件 数
計画全般について	2件
事業計画について	13件
「将来像1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる」関連	3件
「将来像2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける」関連	1件
「将来像3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する」関連	2件
「将来像4 国内外へ貢献していく」関連	6件
「将来像5 お客さまが求めるものをかたちにする」関連	1件
「将来像6 培われた高い技術を未来へつなぐ」関連	5件
「将来像7 健全な経営を行う」関連	1件
財政計画について	0件
その他	3件
計	18件

※事業計画については、一つの意見が複数の将来像に関連するものがあるため、内訳と合計が一致しない。

(3) 計画への反映状況

項 目	件 数
①計画に掲載済	3件
②計画に追加・修正あり	0件
③計画に追加・修正なし	12件
④その他	3件

2 北九州市上下水道事業中期経営計画2030（素案）に対する意見と上下水道局の考え方

No.	意見の概要	上下水道局の考え方	意見の反映状況
計画全般に対する意見			
1	資材や動力・薬品は必要なのか。	<p>上下水道施設には管路や浄水場、浄化センターなど多くの土木構造物や建築物などがあり、そういった施設の整備にあたっては金属やコンクリートなどの資材が必要です。</p> <p>安全に飲むことのできる水道水をつくる際、また、下水をきれいにして海等に放流する際に、消毒などのため薬品が必要です。</p> <p>さらに、水道水を作る、各家庭等へ給水する、家庭等で生じた下水を浄化センターまで運ぶ、下水をきれいにするには、機械・設備を動かすための動力（電力）が必要です。</p>	③
2	工業用水は必要なのか。	<p>工業用水は、鉄鋼、化学などの重厚長大産業の発展を支えてきた重要なインフラであり、産業の血液と呼ばれています。</p> <p>本市の工業用水は、洞海湾周辺企業等の産業の発展に寄与するため、供給を開始しました。</p> <p>以降、臨海部の大規模な工業団地等を給水区域に加えながら事業を展開してきました。</p> <p>企業誘致の促進、及び既存企業の産業競争力の強化に寄与するために、今後も工業用水の供給は必要と考えています。</p>	③
事業計画に関する意見			
3	<p>【将来像1・6・7 関連】</p> <p>衛星とAIは必要だろうか。電磁波と事故が心配。マイクロ波がこわいと思う。</p> <p>AI等は使えない。</p>	<p>人材や財源が限られている中、人工衛星やAIなど新たな技術を活用することで、より効率的・効果的に事業を進めていきます。</p> <p>なお、国としても人工衛星やAIなどの技術を上下水道DXとして、全国展開を進める方針であり、多くの事業者がこれらの技術を採用、または採用を検討している状況です。</p>	③
4	<p>【将来像1・6 関連】</p> <p>職員の方の今まで培って継承して来られた技術と併せて、衛星やドローンなどの技術を下水管の状態チェック、修理のために活用することについて賛成します。</p>	<p>人材や財源が限られている中、人工衛星やドローンなど新たな技術を活用することで、より効率的・効果的に事業を進めていきます。</p>	①

【意見の反映状況】

①計画に掲載済 ②計画に追加・修正あり ③計画に追加・修正なし ④その他

No.	意見の概要	上下水道局の考え方	意見の反映状況
5	<p>【将来像 1 関連】</p> <p>水道事業、下水道事業のいずれも、収入が落ち込む一方、企業債が膨らむ状況は経営的に舵取りが難しいことと推察しますが、いつまでも将来人口が100万人超のインフラを保有することには無理があります。</p> <p>人口密度が低いエリアでの上水道・下水道のサービスのあり方について、例えば、公共水道以外の水道網の構築や浄化槽への切り替え等について、喫緊の課題と位置付け、方向性を出すべきではないでしょうか。</p>	<p>現時点では、新たに給水車等を設けて運搬給水に切り替えることや、合併浄化槽等を設けて下水道から切り替えることなどは、コストに見合わないと考えています。</p> <p>しかしながら、今後、新たに水道や下水道を必要とする箇所については、費用対効果を考慮のうえ、整備のあり方を検討していきます。</p>	③
6	<p>【将来像 2・3 関連】</p> <p>水道水の中のPFASについての検査が厳しくなっているのは良いことだと思います。しかし下水道事業で汚泥を肥料に使うことについてはPFAS残留の心配が残りますので、賛成しかねます。自然界では分解されにくく体内に堆積していく化学物質で胎児、乳幼児には特に影響が強いと聞いていますから心配です。市民の健康に被害が出るに先んじて予防的に、水道水の原水を採るところでの濃度の検査と結果公表およびその継続、市民の血液検査についても検討してほしいです。報道によると東広島市で、井戸水を利用して市民が市に何度要望しても血液検査をしてもらえず、費用自己負担で検査をしてもらったところ極めて高い濃度のPFASが検出されたということです。</p>	<p>下水汚泥を原料とする肥料に含まれるPFASについては、現在、国内に肥料としての含有基準などの規制はありませんが、本市では肥料生産事業者が自主的に下水汚泥の成分検査を実施しています。</p> <p>検査では、PFOS・PFOAについて確認しており、その結果、先進的な基準を設けている米国ミシガン州の基準と比較しても、十分に低い濃度であることを確認しています。</p> <p>今後も国の動向を注視し、定期的な検査と情報収集を通じて、下水汚泥の安全な肥料利用と適切な情報発信に努めていきます。</p> <p>また、本市においては、令和元年度から市内に5カ所ある浄水場で、PFASのうち水質管理目標設定項目に掲げられているPFOS・PFOAを、令和3年度から検査項目にPFHxSを加えて、浄水場の原水及び浄水を検査しており、当該検査結果をホームページ等で公表しています。</p> <p>これまでの検査で、PFOS・PFOA合算値で原水は最大5ng/L、浄水は最大3ng/Lと暫定目標値（50ng/L）以下です。</p> <p>また、PFHxSは原水及び浄水いずれも不検出であり、上下水道局により、市民の血液検査を実施する予定はありません。</p>	③

【意見の反映状況】

①計画に掲載済 ②計画に追加・修正あり ③計画に追加・修正なし ④その他

No.	意見の概要	上下水道局の考え方	意見の反映状況
7	<p>【将来像 3 関連】</p> <p>太陽光発電設備は心配。</p>	<p>環境への負荷を低減するために、太陽光発電設備だけでなく水力発電なども含めて再生可能エネルギーを活用し、二酸化炭素の排出量の削減に取り組んでいます。</p>	③
8	<p>【将来像 4 関連】</p> <p>水道事業、下水道事業は、都市生活の中で一日も欠くことのできない重要なインフラです。日々、上下水道インフラを維持管理してもらっていることに感謝しています。</p> <p>インフラに余裕があるなら、政令指定都市に相応しい広域行政のリーダーとして、北九州広域都市圏の各自治体の上・下水道インフラの更新等に今以上に積極的に関わることで、都市圏全体のインフラの維持管理にスケールメリットが出てくる期待が持てると思います。</p> <p>是非、北九州広域都市圏全体の生活を支えるチームリーダーになっていただきたい。</p>	<p>上下水道事業に関しては、施設の老朽化に加え、職員数の減少、人口減少などに伴う料金収入の減少など、多くの自治体が、共通の課題を抱えています。</p> <p>そのため、これまで芦屋町・水巻町との水道事業の統合、水道用水供給事業の推進、宗像地区事務組合の水道事業の包括業務委託の受託、芦屋町との下水道事業に関する広域連携などに取り組んできました。</p> <p>本計画期間中も、多様な広域連携を推進し、スケールメリットの創出、施設の有効活用、職員の技術継承や事務能力向上を図っていきます。</p>	①
9	<p>【将来像 4 関連】</p> <p>行橋市・苅田町への用水供給事業は開始できません。</p>	<p>行橋市・苅田町への水道用水供給については、広域連携の推進役である福岡県の総合調整のもと検討・協議を進め、令和 6 年 5 月に基本協定を締結しました。令和 7 年度からは供給開始に向けた施設の整備工事に着手、令和 10 年度からの供給開始に向けて、引き続き事業を進めていきます。</p>	③
10	<p>【将来像 4・6 関連】</p> <p>職員の年齢層の幅とばらつきを見たところ幅もあり、加えて他の市などからの職員の技術の研修もしておられるということについて、良いことだと思います。</p>	<p>年齢構成に幅はあるものの、約半数の職員が 50 歳以上であることや、生産年齢人口が減少傾向であることを鑑みると、技術の継承、人材の育成については、重要な課題であると認識しています。</p> <p>そのため、近隣自治体職員の技術研修の受入れなどを通じて、本市職員の技術の継承や実務能力の向上を図っていきます。</p>	①

【意見の反映状況】

①計画に掲載済 ②計画に追加・修正あり ③計画に追加・修正なし ④その他

No.	意見の概要	上下水道局の考え方	意見の反映状況
11	<p>【将来像 4 関連】</p> <p>広域化の導入については懸念があります。広域化以外に課題解決方法がないか、それも考えていただきたいです。広域化することにより、協議の減少や、責任の所在が曖昧になること、意思決定への住民参加や情報公開がされにくくなるのが懸念されるほか、広域化されたのち、民営化されやすくなると考えるからです。</p>	<p>上下水道事業は施設の老朽化や職員・料金収入の減少など、多くの自治体が共通の課題を抱えています。</p> <p>これらの課題解決に向け、施設の長寿命化、官民連携、多様な収入確保など多角的な施策を推進しています。</p> <p>広域化も、他の事業体との相乗効果が期待できる重要な解決策の一つとして、市民の皆様の理解を得ながら丁寧に推進していきます。</p>	③
12	<p>【将来像 4・6 関連】</p> <p>(株)北九州ウォーターサービスとの連携を強める方針であると分かりました。私は北九州市に転入して間もないですが、市が出資しての会社が地元にあると知りませんでした。</p>	<p>(株)北九州ウォーターサービスは、上下水道施設の効率的・安定的な運営、広域化や海外事業への対応のため、市と一体的な取組を行う団体として、平成 27 年 12 月に市が最大出資者となって設立した株式会社です。</p> <p>令和 7 年度からは政策連携団体と位置付け、今後、より一層の連携強化を図っていきます。</p>	③
13	<p>【将来像 4 関連】</p> <p>国際貢献は必要ない。技術があるのか。海外水ビジネスに推進、支援は無理。国際協力は無理。</p>	<p>水環境が十分に整っていない地域に、新たに日本の技術を活用し、上下水道施設を整備していくことは、国際貢献に寄与します。また、上下水道施設の整備に当たり、日本企業、特に地元企業が参画することにより、産業振興に繋がります。更に、本市職員がこれらの取組みに従事することにより、人材育成に繋がります。</p> <p>そのため、これらの意義について、理解促進を図りつつ、引き続き、当該事業を進めて行きます。</p>	③
14	<p>【将来像 5 関連】</p> <p>料金の支払方法の拡充は電気を使わない方が良い。</p>	<p>ご意見として、承っておきます。</p>	③

【意見の反映状況】

①計画に掲載済 ②計画に追加・修正あり ③計画に追加・修正なし ④その他

No.	意見の概要	上下水道局の考え方	意見の反映状況
15	<p>【将来像 6 関連】</p> <p>下水道事業についてウォーター P P P の導入検討を、政府数年前各自治体に強く求めたと承知しています。資料を見る限りウォーター P P P の文字は見当たらないように思います。北九州市がそれを導入しないのであればよいのですが、ウォーター P P P レベル 3.5 の導入、コンセッション、完全民営化には反対です。世界の都市で既に多くの失敗例があり、民営化したものを公営に戻すのに多くの犠牲が払われたことが明らかであるためです。水は公の資源で、生きるに欠かせないもので、水に近づく権利は今も未来もみな公平であるべきと考えるため、末永く公営を堅持していただきたいと願います。</p>	<p>本市においては、市で責任を持つところは市で実施しつつ、職員数や生産年齢人口の減少などの課題への対応や、地元企業の育成や地域産業の発展などを図るため、民間でできることは民間にゆだねています。</p> <p>例えば、下水道事業において、浄化センターの運転業務などを市の政策連携団体である（株）北九州ウォーターサービスや民間事業者を活用しながら事業運営を実施しています。</p> <p>今後、持続可能な上下水道事業を構築するため、更なる民間事業者等の活用を含めて、どのような運営体制が望ましいか、国や他都市の状況を踏まえつつ検討していきます。</p>	③
その他			
16	ダムは作らない方が良い。	本計画期間中に、新たにダムを作る予定はありません。	④
17	地下水がどのように水道水に使われているかはこの資料によっては詳しく分かりませんが、地下水とダムの水の比はどうなっているか関心があります。	本市は、ダムや河川などの地表水が主な水源ですが、地下水（河川の伏流水）も一部利用しており全体の 2～3% となっています。	④
18	北九州市に車イス、つえ、シルバーカーを利用するのが私のまわりでふえた。スーパーやコンビニでもショッピングカートは、車イスを置いてある所がある。ひきこもりなどグループ行動ができないほど伝染病に対するおそれがある。	ご意見を関係部局と共有させていただきます。	④

【意見の反映状況】

①計画に掲載済 ②計画に追加・修正あり ③計画に追加・修正なし ④その他

3 北九州市上下水道事業中期経営計画2030（素案）の修正 （市民意見に基づくもの以外の修正）

（1）上下水道一体での耐震化の推進についての図

計画の23ページの下段の図の取水施設と下水処理場の耐震化率について、補足の説明の追記等。

（2）水道施設の耐震化にかかる表記

①計画の21・23・資料編14・資料編30ページ

広域避難地等への配水管 → 重要施設に接続する配水管

②計画の23ページ

上段の目標に記載している配水池の耐震化率について、補足の説明を追記。